文節と単語

・**文節**…文を、自然な発音や意味となる範囲(はんい)でできるだけ短く区切ったまとまり。

（例）鳥が(文節)ネ／青い(文節)ネ／空を(文節)ネ／飛ぶ。(文節)

・**単語**…それだけで意味をもつ最も小さい言葉の単位。

（例）鳥(単語)／が(単語)／青い(単語)／空(単語)／を(単語)／飛ぶ。(単語)

文節はいくつかの単語からできており、文節の初めの単語は必ず**自立語**である。文節には必ず**一つだけ**自立語が含(ふく)まれる。

↓つまり、文を文節に区切るときは、自立語の前で区切るとよい。

（例）［鳥］(自)が／［青い］(自)／［空］(自)を／［飛ぶ］(自)。

文節には、次の場合がある。

・「自立語」単独の場合
・「自立語」に付属語が付く場合

一つの文節に二つ以上の自立語が含まれることはないが、付属語は二つ以上含まれることもある。

（例）走らなかった…自立語「走る」＋付属語「ない」＋付属語「た」

間違(まちが)えやすい文節の区切り

〜て（で）…

「〜ている」「〜てくる」のように、「助詞て（で）＋自立語」の形は、文節の切れ目を間違えやすいので注意する。

（例）［彼］は／［本］を／［読ん］で／［いる］。

※「読んでいる」は「読んで(自立語＋で)」と「いる(自立語)」の二文節

犬が／走って(動詞＋て)／くる。(動詞)
吾輩は／猫で(名詞＋で)／ある。(動詞)
これを／見て(動詞＋て)／ほしい。(形容詞)

確認テスト

(1) 次の文の内容が正しければ○で、誤っていれば×で、それぞれ答えなさい。

① 一つの文節には、必ず自立語が一つ含まれる。
② 一つの文節に、自立語が二つ以上含まれることもある。
③ 一つの文節には、必ず付属語が一つ含まれる。
④ 一つの文節に、付属語が二つ以上含まれることもある。

①〔　　〕 ②〔　　〕 ③〔　　〕 ④〔　　〕

(2) 例に従って、次の文に含まれる自立語を□で囲み、文節を斜線（しゃせん）（／）で区切りなさい。

（例）[鳥]が／[青い]／[空]を／[飛ぶ]。

庭に美しい花が咲いた。

(3) 例に従って、次の文に含まれる自立語を□で囲み、文節を斜線（／）で区切りなさい。

（例）[鳥]が／[青い]／[空]を／[飛ぶ]。

課題が残っている。

(4) 次の文を文節に分け、斜線（／）で区切りなさい。

明日の準備をしておく。

(5) 次の文を文節に分け、斜線（／）で区切りなさい。

新しいスポーツをやってみる。

(6) 次の文を文節に分け、斜線（／）で区切りなさい。

もっと文法を学んでほしい。